

施策評価シート （評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	4 子どもの居場所づくり	② 施策番号	7608
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	3 青少年、子どもの健全育成		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育部	生涯学習課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	小学1年生から6年生の児童及び中学生。
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	保護者が労働等により、放課後家庭において留守となる児童に対し、適切な遊び、生活の場を与えて、児童の健全育成を図る。また、時代を担う青少年が明るく素晴らしい夢を描ききっかけを作る。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	多様化・複雑化する市民ニーズに柔軟に対応するため、きめ細かな運営体制の構築が望まれている。 国においても補助金等の支援体制を推進している。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 留守家庭児童会登録者数 計算式: 入会申込者数/全施設定員合計(465)	人	現在の定員における登録者の割合をつかむことで、市民の必要性を推測することができる。
② 計算式:		
③ 計算式:		

No.	指標名	単位	実績値					備考	
			H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標		
①	留守家庭児童会登録者数	人	目標値	465	465	465	465	465	
			実績値	496	462	424	—	—	
			達成率	106.7%	99.4%	91.2%			
②			目標値						
			実績値						
			達成率						
③			目標値						
			実績値						
			達成率						

[3] 施策を構成する事務事業

No.	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果			重点化	
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価	今後の方向性		
1	留守家庭児童会運営事業	入所率	%	13	13	13	99,330	124,141	112,538	B	イ	b	◎
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
計	1						99,330	124,141	112,538				

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	放課後児童を一人にすることなく、安全で安心できる環境にて保育し、また、子どもが参加できる事業を実施することは、こどもの健全育成につながると考えている。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2〔2〕の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	登録者数が年々増えており、今後も増える可能性が読み取れる。ニーズに対し、受け入れ定員が不足していく傾向にある。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	適切であると考えている。 しかしながら、留守家庭児童会においては教育ではなく保育であると考え、福祉部門が所管すべきだと思われる。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2〔3〕を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	生涯学習課で所管する業務の範囲内において適正である。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2〔3〕において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	今後も重点的に進めるべき施策であると考えている。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	C	増加傾向にある留守家庭児童会への入会希望児童への対応について考えていく必要がある。子ども夢事業については、内容としては好評であったが、開催方法や参加募集方法について検討する必要がある。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	青少年センターや文化財保護係、ボランティア団体等と連携した保育プログラムの検討実施。 子ども夢事業の実施方法の検討。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	市民ニーズに応じたサービスの拡充と、それに伴う支援員の確保。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	空き教室の利用や、既存建物の改修など施設を拡充して、潜在的な需要に応える。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	C	留守家庭児童会運営事業について引き続き利用者の需要に対応できるよう、計画的に取組を進められたい。 新たな居場所づくりに向けた事業については、関係機関との連携による事業展開について検討を進められたい。	